

大草谷津田いきものの里 自然観察会

谷津田の緑いろいろ

太田慶子（千葉市）

日 時：2012年4月15日（日）10:30～12:00 天候：晴れ時々曇り

参加者：20名（大人13名 子ども7名）

担当指導員：太田慶子・山口由富子

始まる前に、参加者を前に今年の春の訪れの遅さを愚痴ってしまった。テーマである谷津田の緑が「いろいろ」でなく、「まだまだ」だから…。

このテーマである「緑」という言葉について調べたら、もともと「みどり」というのは色をさしたのではなく、草木の新芽を表わす言葉だったらしい。ただ、万葉集に「春は萌え 夏は緑に…」とあるように、緑というのは、早春の色ではなく新緑の色で、寒い今春はコナラ・クヌギなど雑木林の木々はやっと芽吹き始めたばかり。しかもよく見ると、その芽吹きの色もちっとも緑色をしていない。なぜか…、広葉樹の葉は光が当たらないと緑色の葉緑素（クロロフィル）ができないかららしい。

と言ったことを話した後、参加者に広場から林を見上げてもらうと、芽吹きが淡い褐色をしており、鮮緑色をしているのは常緑樹だ。

赤色のアントシアニンが紫外線カットに役立つことを今は多くの人が知っているように、生まれ立ての葉っぱには赤くなるものも多い（近くの生垣のカナメモチなどを示す）。また、若い葉には産毛ともいえる毛が生えているものが多く、それは白っぽく見える。毛のあるのはルーペで見てもらった。葉に含まれる葉緑素の量の多寡や散らばり方の違いが、木々の葉の個性を示しているのだろうが、今回は落葉樹がまだ葉を広げていないので、探って比較するのは見合せた。常緑樹の古い葉と新葉でも色合いがかなり違い、参加者は間近にあったフユヅタやシダ類などの新葉を見て、そのみずみずしさを感じられたようだ。

「緑」はこの程度で切り上げ、ヒキガエルのオタマジャクシを見てもらった方がいいと、水の張った田んぼに行く。黒く小さいオタマジャクシがうじょうじよ泳いでいる。Yさんがやっと見つけてくれたアカガエルの少し大きくて褐色のオタマジャクシと比べると、子どももその違いがよくわかって「黒い、黒い」という。

シオヤトンボの羽化殻を見つけてくれたIさんが、今度は「シオヤトンボが羽化しているよ～～」というので、皆がその場所に集まる。田んぼの畔近くで羽化最中のトンボに感激！ 目が慣れると7頭くらいのトンボの羽化を見つかった。

シュレーゲルアオガエルの声が賑やかな田んぼで観察会を終えたが、そのあとすぐ大きなシュレーゲルの雌らしいのがぼしやんという水の音とともに「緑」色の姿を現した。

九州にいる自然好きな母のようになりたいという女性は、同じ葉なのに若い葉と古い葉でも違うんですね…。四街道から来たふだんから子どもさんに自然の中での遊びを楽しませているというお母さんは、（谷津田でご主人に子どもらの世話を任せて）知りたい木々の名前などを勉強できてよかったですとおっしゃった。

